

事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	ページ
32112	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	2
32112	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	3
32112	こども本の森開設準備事業	坂の上の雲まちづくり部	坂の上の雲ミュージアム	4

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601	
部長等名	佐伯 文男	課等長名	伊藤 彰規	リーダー	石丸 耕一	担当	芝 啓作	井上 敦子

1.事業概要【Plan】

事業名	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	3:指定管理	
32112							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	○	-	○	
施策	選ばれる都市づくり						
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり	根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則				
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用						
目的・背景	坂の上の雲ミュージアムは小説『坂の上の雲』の3人の主人公(正岡子規、秋山好古、秋山真之)が抱いた高い志とひたむきな努力、夢や希望をまちづくりに取り入れた『坂の上の雲』を軸とする21世紀のまちづくり構想の中核施設として誕生した。小説に描かれた主人公の足跡や明治という時代に関する「展示機能」をはじめ、小説ゆかりの史跡の魅力を紹介する「フィールドミュージアムガイド機能」、地域主体で行われる地域資源活用の取組などの「まちづくり支援機能」を持った複合施設として、訪れた人々が時の流れについて感じ、考える場を提供することを目的としている。						
対象・内容	資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業を実施し、坂の上の雲ミュージアムの利用促進を図る。 坂の上の雲ミュージアムの維持管理に指定管理者制度を導入し、施設の安定稼働を図る。 市民に対して、各種講座(ミュージアム講座、大学連携市民講座)や定例イベント、子供向けワークショップ等の開催・情報発信を行い、利用促進を図る。 観光客に対して、関係部門や県内外の博物館等との連携によるPR活動を行い、利用促進を図る。 外国人に対して、施設案内パンフレット等の多言語化を実施し、利用促進を図る。						

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費
事業費/財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度					
予算 (千円)	事業費計	108,829	129,995	141,315		主な経費 (千円) 【R5 決算】	指定管理料		91,093
	国費・県費						展示情報システムの機器・ソフトウェア賃借料		2,047
	市債						展示情報システムの運用支援委託料		1,917
	その他	21,032	25,040	23,808					
	一般財源	87,797	104,955	117,507					
決算 (千円)	事業費計	105,471	119,422			主な取組 内容 【R5】	・指定管理者制度による施設維持管理及び運営 ・資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業等の実施。 ・小説『坂の上の雲』完結50周年記念事業として、シンポジウムを開催。		
	国費・県費	1,908							
	市債								
	その他	18,266	22,295						
	一般財源	85,297	97,127						
	(執行率)	97%	92%						
人役	正規職員	3.5	3.4	3.7		特記 事項			
	その他	0.5	1.0	1.0					
	合計	4.0	4.4	4.7					

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和5年度)
	目指す方向性	単位						
活動 指標	2階ホール等を活用したイベント・展示等の開催	目標	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き、各種イベントの実施が可能になったため。	
		実績	81	114				
	単年で増	回	達成率	81.0%	114%			
成果 指標	入館者数	目標	90,000	110,000	130,000	130,000	新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き、感染症法上で5類に移行したことにより、各種イベント等に来館される方が増加した。	
		実績	87,954	114,205				
	単年で増	人	達成率	97.7%	103.8%			
事業 評価	評価	期待した成果をあげることができた。						
	理由	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて落ち込んでいた状況から脱し、コロナ禍以前の状態まで回復した。SNS等の活用で市民や観光客、研究者など幅広い世代への周知が功を奏したといえる。						
課題	「こども本の森」図書室(仮称)の開室情報も含め、今後も市内外の幅広い世代へのミュージアムの魅力発信を継続して行うことが必要。			今後の 方向性	現行のまま継続	左記の 理由	今後も坂の上の雲ミュージアムに親しんでもらえるイベント開催や来館者サービス水準の向上に努め、市内外多くの人に小説『坂の上の雲』のメッセージを伝えていく。	

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601	
部長等名	佐伯 文男	課等長名	伊藤 彰規	リーダー	石丸 耕一	担当	上田 一樹	西松 陽介

1.事業概要【Plan】

事業名	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	2:委託	
32112							
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】	各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約	
政策	都市全体の価値や魅力を向上する		○	○	○	○	
施策	選ばれる都市づくり						
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり	根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則				
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用						
目的・背景	開館前に開催した「坂の上の雲 記念館展示専門委員会」からの答申を最大限に尊重し、毎年テーマを新たに企画展を開催している。多角的な視点から小説『坂の上の雲』の時代と世界に関する企画展を開催し市内外へ広く発信することで、市民に「『坂の上の雲』のまち松山」への愛着と誇りを感じてもらい、市外の方々に「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらうことを目的としている。						
対象・内容	松山市民、観光客を対象とした企画展示 ・坂の上の雲ミュージアム企画展示の企画、調査、展示設計、展示制作を行う。(2月頃展示入れ替え) ・企画展示に関連した記念講演会等を行う。 ・企画展示の図録を製作する。 ・音声ガイドに関する業務を行う。(内容更新、機器の賃借) ・そのほか大規模に行う展示にかかる業務を行う。						

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費	
事業費/財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度						
予算 (千円)	事業費計	24,438	26,197	28,377		主な経費 (千円) 【R5 決算】	展示制作及び設置等の委託料		8,455	
	国費・県費							展示基本設計の委託料		3,850
	市債								資料返却輸送等業務委託料	
	その他	1,253	1,440	1,740						
	一般財源	23,185	24,757	26,637						
決算 (千円)	事業費計	21,689	23,764			主な取組内容 【R5】	・第17回企画展テーマ展示「『坂の上の雲』にみる明治の最先端－近代化への道－」を開催。			
	国費・県費									
	市債									
	その他	1,331	1,114							
	一般財源	20,358	22,650							
	(執行率)	89%	91%							
人役	正規職員	3.5	3.5	3.5		特記事項				
	その他	0.5	0.0	0.0						
	合計	4.0	3.5	3.5						

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標の達成又は未達成要因の分析 (令和5年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	メディア等へのPR(広告)	目標	360	850	850	850	Instagramの投稿を通年実施したほか、広報まつやまラジオ等で定期的にPRに努めた。	
		実績	852	862				
	単年で増	回	達成率	236.1%	101.4%			
成果指標	入館者数	目標	90,000	110,000	130,000	130,000	新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いたことにより、感染症法上で5類に移行したことにより、企画展や記念講演に来館される方が増加したため。	
		実績	87,954	114,205				
	単年で増	人	達成率	97.7%	103.8%			
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。						
	理由	小説『坂の上の雲』完結50周年をテーマにした企画展が好評であったため。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて落ち込んでいた状況から脱し、コロナ禍以前の状態まで回復した。SNS等の活用で市民や観光客、研究者など幅広い世代への周知が功を奏したといえる。						
課題	今後も多くの来館者が訪れるよう、市民や観光客、研究者などさらに幅広い世代へ周知・啓発を図る必要がある。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	令和7年度の「こども本の森」図書室(仮称)の開室により、ミュージアムの来館者層に変化がみられることが想定される。	

令和6年度 松山市事務事業シート（令和5年度実績分）

部局等名	坂の上の雲まちづくり部	課等名	坂の上の雲ミュージアム	担当G	坂の上の雲ミュージアム	連絡先	915-2601		
部長等名	佐伯 文男	課等長名	伊藤 彰規	リーダー	石丸 耕一	担当	上田 一樹	芝 啓作	

1.事業概要【Plan】

事業名	32112	こども本の森開設準備事業	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)		事業区分	2:委託		
基本目標	地域の魅力・活力があふれるまち【産業・交流】		各種計画該当	総合計画(実施計画)	総合計画(笑顔プログラム)	総合戦略	市長公約		
政策	都市全体の価値や魅力を向上する			○	-	○	○		
施策	選ばれる都市づくり			○	-	○	○		
主な取組	まちの特性を生かした魅力づくり		根拠法令	松山市坂の上の雲ミュージアム条例 松山市坂の上の雲ミュージアム条例施行規則 松山市坂の上の雲ミュージアム事務規則					
取組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用								
目的・背景	建築家・安藤忠雄氏から提案のあった「こども本の森」図書室(仮称)の坂の上の雲ミュージアムへの増築について、令和7年度中の開設を目指し、準備を進めている。								
対象・内容	増築工事を行うための環境整備を図る。 安藤忠雄建築研究所との協議や、増築予定場所の発掘調査を行う。								

2. 事業実施【Do】

		会計	一般会計	款	商工費	項	観光費	目	観光資源開発費	
事業費/財源		令和4年度	令和5年度	令和6年度						
予算 (千円)	事業費計	0	1,426	30,791		主な経費(千円)【R5決算】	増築に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託料		1,275	
	国費・県費							こども本の森にかかる調査・視察用務旅費		300
	市債									
	その他			27,248						
	一般財源		1,426	3,543						
決算 (千円)	事業費計	0	1,575			主な取組内容【R5】	・増築予定場所の埋蔵文化財発掘調査を実施。 ・安藤忠雄建築研究所と協議し、建物のイメージ図や建築と運営のコンセプトを発表。			
	国費・県費									
	市債									
	その他									
	一般財源		1,575							
	(執行率)	0%	110%							
人役	正規職員		0.4	1.0		特記事項	発掘調査面積が増えて業務委託料が増額した。			
	その他		0.0	0.0						
	合計	0.0	0.4	1.0						

3.事業評価(検証・改善)【Check・Action】

種類	指標名		区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標の達成又は未達成要因の分析(令和5年度)
	目指す方向性	単位						
活動指標	メディアでの情報発信	目標	-	-	50	50	インスタグラムの投稿や、広報まつやま等で積極的にPRに努めた。	
		実績	1	10				
	単年で増	回	達成率	-	-			
		目標						
		実績						
		達成率						
事業評価	評価	期待した成果をあげることができた。						
	理由	「こども本の森」図書室(仮称)のコンセプトや工事の進捗情報を発信することで、市内外の幅広い世代に関心を持っていただき、機運の醸成を図ることができている。						
課題	「こども本の森」図書室(仮称)開室に向けての情報発信やイベントの実施等により、多くの人に図書室を身近に感じていただくことが必要。			今後の方向性	現行のまま継続	左記の理由	今後もさらに多くの方々へ「こども本の森」図書室(仮称)の魅力を伝えたい。	